

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】令和 7 年 5 月 26 日(2025.5.26)

【公開番号】特開 2024-14210(P2024-14210A)
【公開日】令和 6 年 2 月 1 日(2024.2.1)
【年通号数】公開公報(特許)2024-020
【出願番号】特願 2022-116872(P2022-116872)
【国際特許分類】

A 6 3 F 5/04(2006.01)

10

【F I】

A 6 3 F 5/04 6 6 1

A 6 3 F 5/04 6 2 0

【手続補正書】

【提出日】令和 7 年 5 月 16 日(2025.5.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

20

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

開口部を有する箱状に形成された本体部材と、
ヒンジ機構を用いて前記本体部材に対して開閉可能に取り付けられた扉部材と、
複数種類の部品が配置される第 1 面部と前記複数種類の部品のリード線が半田付けされる
第 2 面部とを有する所定の基板と、を備え、
前記複数種類の部品には、第 1 部品と、前記第 1 部品と同じ性能を有する第 2 部品と、前
記第 1 部品とは異なる性能を有する第 3 部品と、前記第 1 部品、前記第 2 部品および前記
第 3 部品とは異なる性能を有する第 4 部品とが含まれ、
前記第 1 部品はリード線 1 a とリード線 1 b を有し、
前記第 2 部品はリード線 2 a とリード線 2 b を有し、
前記第 3 部品はリード線 3 a とリード線 3 b を有し、
前記第 4 部品は複数のリード線 4 を有し、
前記第 1 部品のリード線 1 a は前記所定の基板のスルーホール 1 c に前記第 1 面部側から
挿入され、
前記第 1 部品のリード線 1 b は前記所定の基板のスルーホール 1 d に前記第 1 面部側から
挿入され、
前記スルーホール 1 c と前記スルーホール 1 d とを結んでなる仮想線分を所定の仮想線分
1 とし、
前記第 2 面部から突出した前記リード線 1 a は、前記所定の基板を所定の向きにした状態
で前記第 2 面部を平面視したときに、前記所定の仮想線分 1 に対する角度が n 1 度であり
、
前記第 2 面部から突出した前記リード線 1 b は、前記所定の基板を所定の向きにした状態
で前記第 2 面部を平面視したときに、前記所定の仮想線分 1 に対する角度が n 2 度であり
、
前記第 2 部品のリード線 2 a は前記所定の基板のスルーホール 2 c に前記第 1 面部側から
挿入され、
前記第 2 部品のリード線 2 b は前記所定の基板のスルーホール 2 d に前記第 1 面部側から
挿入され、

30

40

50

前記スルーホール 2 c と前記スルーホール 2 d とを結んでなる仮想線分を所定の仮想線分 2 とし、

前記第 2 面部から突出した前記リード線 2 a は、前記所定の基板を所定の向きにした状態で前記第 2 面部を平面視したときに、前記所定の仮想線分 2 に対する角度が n 3 度であり

—
前記第 2 面部から突出した前記リード線 2 b は、前記所定の基板を所定の向きにした状態で前記第 2 面部を平面視したときに、前記所定の仮想線分 2 に対する角度が n 4 度であり

—
前記第 3 部品のリード線 3 a は前記所定の基板のスルーホール 3 c に前記第 1 面部側から挿入され、

前記第 3 部品のリード線 3 b は前記所定の基板のスルーホール 3 d に前記第 1 面部側から挿入され、

前記スルーホール 3 c と前記スルーホール 3 d とを結んでなる仮想線分を所定の仮想線分 3 とし、

前記第 2 面部から突出した前記リード線 3 a は、前記所定の基板を所定の向きにした状態で前記第 2 面部を平面視したときに、前記所定の仮想線分 3 に対する角度が n 5 度であり

—
前記 n 1 度と前記 n 3 度は略同一の角度であり、

前記 n 2 度と前記 n 4 度は略同一の角度であり、

前記 n 1 度と前記 n 5 度は異なった角度であり、

前記第 1 面部には、所定の部品情報が印刷されており、

前記本体部材の内面部または、前記扉部材の裏面部に前記所定の基板が設けられた状態において、前記所定の部品情報は、左から右への向きに文字が並ぶ横書きの態様で印刷されているか、または下から上への向きに文字が並ぶ横書きの態様で前記第 1 面部に印刷されており、

前記第 4 部品の前記複数のリード線 4 は、前記リード線 1 a、前記リード線 1 b、前記リード線 2 a および前記リード線 2 b よりも強度が高いことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明に係る遊技機は、開口部を有する箱状に形成された本体部材と、ヒンジ機構を用いて前記本体部材に対して開閉可能に取り付けられた扉部材と、複数種類の部品が配置される第 1 面部と前記複数種類の部品のリード線が半田付けされる第 2 面部とを有する所定の基板と、を備え、前記複数種類の部品には、第 1 部品と、前記第 1 部品と同じ性能を有する第 2 部品と、前記第 1 部品とは異なる性能を有する第 3 部品と、前記第 1 部品、前記第 2 部品および前記第 3 部品とは異なる性能を有する第 4 部品とが含まれ、前記第 1 部品はリード線 1 a とリード線 1 b を有し、前記第 2 部品はリード線 2 a とリード線 2 b を有し、前記第 3 部品はリード線 3 a とリード線 3 b を有し、前記第 4 部品は複数のリード線 4 を有し、前記第 1 部品のリード線 1 a は前記所定の基板のスルーホール 1 c に前記第 1 面部側から挿入され、前記第 1 部品のリード線 1 b は前記所定の基板のスルーホール 1 d に前記第 1 面部側から挿入され、前記スルーホール 1 c と前記スルーホール 1 d とを結んでなる仮想線分を所定の仮想線分 1 とし、前記第 2 面部から突出した前記リード線 1 a は、前記所定の基板を所定の向きにした状態で前記第 2 面部を平面視したときに、前記所定の仮想線分 1 に対する角度が n 1 度であり、前記第 2 面部から突出した前記リード線 1 b は、前記所定の基板を所定の向きにした状態で前記第 2 面部を平面視したときに、前記所定の仮想線分 1 に対する角度が n 2 度であり、前記第 2 部品のリード線 2 a は前記所定の基板のスルーホール 2 c に前記第 1 面部側から挿入され、前記第 2 部品のリード線 2 b は

10

20

30

40

50

前記所定の基板のスルーホール 2 d に前記第 1 面部側から挿入され、前記スルーホール 2 c と前記スルーホール 2 d とを結んでなる仮想線分を所定の仮想線分 2 とし、前記第 2 面部から突出した前記リード線 2 a は、前記所定の基板を所定の向きにした状態で前記第 2 面部を平面視したときに、前記所定の仮想線分 2 に対する角度が $n 3$ 度であり、前記第 2 面部から突出した前記リード線 2 b は、前記所定の基板を所定の向きにした状態で前記第 2 面部を平面視したときに、前記所定の仮想線分 2 に対する角度が $n 4$ 度であり、前記第 3 部品のリード線 3 a は前記所定の基板のスルーホール 3 c に前記第 1 面部側から挿入され、前記第 3 部品のリード線 3 b は前記所定の基板のスルーホール 3 d に前記第 1 面部側から挿入され、前記スルーホール 3 c と前記スルーホール 3 d とを結んでなる仮想線分を所定の仮想線分 3 とし、前記第 2 面部から突出した前記リード線 3 a は、前記所定の基板を所定の向きにした状態で前記第 2 面部を平面視したときに、前記所定の仮想線分 3 に対する角度が $n 5$ 度であり、前記 $n 1$ 度と前記 $n 3$ 度は略同一の角度であり、前記 $n 2$ 度と前記 $n 4$ 度は略同一の角度であり、前記 $n 1$ 度と前記 $n 5$ 度は異なった角度であり、前記第 1 面部には、所定の部品情報が印刷されており、前記本体部材の内面部または、前記扉部材の裏面部に前記所定の基板が設けられた状態において、前記所定の部品情報は、左から右への向きに文字が並ぶ横書きの態様で印刷されているか、または下から上への向きに文字が並ぶ横書きの態様で前記第 1 面部に印刷されており、前記第 4 部品の前記複数のリード線 4 は、前記リード線 1 a、前記リード線 1 b、前記リード線 2 a および前記リード線 2 b よりも強度が高いことを特徴とする。

10

20

30

40

50